

実況中継「土曜講座」

第5号 2026年7月10日発行

市川学園6月20日の土曜講座 於 北館1F 多目的ホール

関雄二先生

文化遺産の国際協力 —南米アンデス文明の遺跡の保存と活用— 国立民族学博物館長・名誉教授



関雄二先生のご紹介

1982年：東京大学大学院社会学研究科修士課程修了。同大学教養学部助手、
東京大学総合研究資料館（現・総合研究博物館）助手を歴任。

1995年：天理大学国際文化学部助教授に就任。

1999年：国立民族学博物館に転任し、民族社会研究部助教授となる。

2005年：同館 研究戦略センター教授に就任。

2017年：同館 副館長（～2022年3月）。

2022年：同館 定年退職。名誉教授および特定教授。

2025年：国立民族学博物館の館長（第7代）に就任。

主な講義内容の紹介

第3回の土曜講座は、国立民族学博物館長の関雄二先生をお招きして、「文化遺産の国際協力」についてお話いただきました。

前半は概論的な内容でした。文化遺産は、一つの地域や国だけのものではなく、人類全体の財産である。文化遺産は、多様な文化の価値観が反映された「人類のアルバム」であり、「人類の記憶装置」である。だからこそ、文化遺産を大切にすることは、他者や異文化を尊重し、平和な社会をつくることにつながる。国境を越えて協力しながら文化遺産を守り、活用していく活動が文化遺産の国際協力であり、都市化・盗掘・盗品売買・自然災害・戦争・紛争といったさまざまな脅威から文化遺産を守る必要があるとのことでした。

後半では文化遺産の国際協力について、関先生の南米ペルーでの実際の発掘調査の経験に即して、さまざまな経験を語っていただきました。「国際協力」の内容は、発掘調査や学術研究、保存修復を行うだけでなく、現地の専門家を育成したり、博物館づくりを援助したりと多岐に渡る。地域の人々がそうした活動に巻き込むことで、地域の人々の自信やアイデンティティを育てることもつながっていく。研究者・知識人という立場から一方的に支援を押し付けるのではなく、地域の人々と一緒に考え、地域の人々から学ぶことが大切なのだというお話が印象的でした。

最後に、関先生からはこんなメッセージをいただきました。

文化遺産は過去のものではありません。

私たちがどこから来たのかを教え、異なる人々を理解し、未来へつなぐための人類共通の財産です。

受講レポートから

- ・実際に現場に行ったことのある先生が現場でしか味わえないような経験談も交えた講演をしてくださったのでとてもわかりやすく、興味がでてきた。おもしろかった。世界史が楽しみになった。（中1女子）
- ・遺跡の発掘を通して現地の人々と協力することにより、村の活性化につながり、小さなことながらも人々の暮らしを豊かにしていくことができる。このことから、続けることと周囲と協力することの大切さを学ぶことができた。（中1女子）
- ・何かを長く続けると、本人だけの「自分が大事にする価値観が生まれる」というのがよくわかりました。（中略）元々アンデス文明に興味があってこの講座を受講しましたが、アンデス文明にとどまらず、誰かの大切な文化を残していく行為自体が魅力的に見えてきました。将来の選択肢が一つ増えました。（中3女子）



博物館の展示物等で現地の文化を知るには限界があり、人々との繋がりが最も良い学びであることを理解した。最終的には自分自身がどのような人間であるか、そしてどのような人生を送りたいのか教わるのが文化遺産の大切さであると感じた。（高1女子）

- ・文化遺産はなんとなく守るべきものという認識でしたが、文化遺産がもたらす影響については考えたことがありませんでした。特に文化遺産は戦争の時にはねられず、平和であればまられるという視点がおもしろいと思いました。また、文化遺産などの国宝と言われるものは国の一部の人々が管理し、保存していくものだと思っていたので、ペルーのクントウル・ワシ遺跡やパコパンバ遺跡では、住民自身が誇りを持って行動していくということにとても感動しました。（中略）研究者と地域の人々の交流から新しい歴史が生まれていく（祭りなど）ということも驚きました。（高1女子）



- ・人間は何か物質を通して記憶していて、人類のたどってきた道を知るすべが文化遺産であると聞いて納得したし、なくしてはならないと思いました。（高2女子）
- ・村ごと博物館というアイデアにすごく感動した。ある建物におさめるのよりも地域一体となってよりよいものになると思った。（高2女子）

- ・ペルーのクントウル・ワシ遺跡での文化協会による博物館の運営、パコパンバ遺跡での村の祭りなどを通した住民や学校との交流や、人々の昔と今の記憶を収集するなどの実例を見ることで、研究者たちだけで調べたり守ったりするのではなく、世界中の人々でつくって守っていくものなんだと思った。これからは、文化遺産は過去のものではなく、私たちが未来でどう生きていくのか考えるための大切な財源であることを心にとめておきたい。（高2女子）

（文責：三代川 隆也 先生）

